

館報

おおくま

お も な 内 容

- 2面…新年のごあいさつ
- 3面…清 流
- 4・5・6面…新年を迎えて
- 7面…文化展・公民館見学
- 8・9面…研修レポート
- 10・11面…スポーツ結果
- 12面…大熊町のみなさんよろしく
- 13面…考えてみませんか産地作りを
文化団体連絡協議会発足
- 14面…文 芸
- 15面…みんなのひろば
- 16面…町史探訪・編集後記

発行編集 大熊町公民館
印刷所 新栄社写真美術印刷㈱



写真：熊町小学校五年生の
元気なみなさん

新年のごあいさつ

教育長 太田芳一郎



新年おめでとうございます。
輝かしい昭和五十九年の新春を皆様方と共に喜び申し上げます。旧年中は教育行政進展のために種々ご高配をいただきまして厚く御礼申し上げます。

昭和五十九年の年頭に当り教育行政に対する抱負の一端を申し述べご理解いただきたいと思えます。先ず学校教育をすすめるについての諸施設の整備状況については、すべて立派に細かい点まで手が尽くされており、本町の発展を物語っております。私達教育関係者は、これらを如何に高度に活用を図り教育効果を上げるかについて、常に努力を続けております。

今年度政府に於ては教育改善を図る大綱を示しております。『ゆとりある充実した学校教育により、21世紀をにう人間性豊かな子どもを育成。』と言う目的達成に対して種々検討を加えた結果である様です。今後の文部省方針に沿った教育委員会としての指針を打ち

出し、学校教育によって、知・徳・体の調和のとれた人間形成が図られるように力を入れてまいります。次に社会教育と社会体育のすすめ方に対する考えであります。両者何れも公民館を窓口として、町民の皆様方の要望に応じております。社会教育に於ては各種部門それぞれ良く認識され自ら学習を探究する意欲のある人は定着しており、地域活動即ち分館活動に於ても然りであります。然しながら未端まで浸透を図るには未だ日時を要するようであり、教育委員会・公民館、ともども力を入れてまいります。

又社会体育については総合グラウンド完成によりすべての体育施設が完備しまして昨年度は利用者数が急増、関係者は行事等の遂行に忙殺された一年でありました。町民の皆様が各層に於て広く利用されますことは、体力増進と健康な町づくりのため大変結構な事と思っております。が関連して児童生徒の健全育成にご配慮戴ければ尚幸いであります。小中学生を持つお父さんやお母さんが夜半までスポーツの練習或は試合に参加するため、時によっては両親が連日不在となりがち

のご家庭も多くなりつつあるといわれます。そのために生ずる親子対話の不足や、学力不振にならないような細かい配慮が必要であると思っております。社会体育と家庭教育のバランスを崩さずにするすめますようお願い申し上げます。

今年も町民の皆様方のご支援をいただきながら教育行政を力一杯すすめて参ります。年頭に当り皆様方の一層のご多幸をお祈りいたしましてごあいさついたします。

豊かな人間性の育成を目標として



公民館長 志賀友定

新年おめでとうございます。
希望に満ちた、昭和五十九年の新春を迎えるにあたり、皆さんの御発展と御多幸を心からお祈り申し上げます。

皆様には、社会教育進展のため一杯の御協力を賜りお陰様をもちまして大過なく越年することができました。

これひとえに町民皆様の御支援御協力の賜物と心から感謝申し上げます。

変ほう著しい社会情勢の中で、生涯教育への期待はますます高まり、地域における社会教育の充実

と発展のために、公民館の果すべき役割がますます重要であること痛感いたしております。

- ・あすをにう青少年の健全育成
- ・自から学習し生がいを求める社会教育
- ・健康と体力の向上をめざす社会体育
- ・伝統を生かし創造性をはぐくむ文化活動

これが県教育委員会の社会教育関係の重点施策であり、これ等の重点施策をふまえながら、移り変わりの早い現代社会の動態をじっくり見きわめ、地域の実態に即し

謹賀新年

教育委員長	井戸川 清隆
社会教育委員長	渡部 悟
公民館運営審議会委員長	鈴木 幸夫
体育指導委員長	常盤 利昭
委員一同	委員一同

た生涯の各時期における要求課題に対応した計画的・組織的、かつ創意と工夫にみちた活動を推進すべく私達職員一同本年も最善の努力を傾注する決意であります。

今年も皆さんの変らぬ御理解と御支援を切にお願い申し上げます。終りに皆様方のご多幸をお祈りしてごあいさついたします。



新年おめでとう

公民館報編集委員

松本幸一 井戸川俊正
木幡キサ 石田キミ子
島 覚 鎌田清衛
佐々木親兵衛

大熊町公民館職員一同

若葉学級に通って



学級生 仲井美幸

去年の九月に結婚をして、生まれて初めての地、東北にやってきました。

関西の生まれ育ちで、親戚、友

人は関西がおもで、大熊には主人以外ひとりも知った人はいない。でもそのことに對しての不安などは少しもなかった。そしてその通り近所の方たちのおかげで寂しさもあまり感ぜずに今日に至っている。

でも自分から外に働きかけないと人となり合うことは出来ない。そんなおり、公民館でいろいろな講座があることを知った。入ってみたい講座、学級が三つ四つあがったが、本来のあきっぱい性格を考えて続きそうに楽しい講座をと思い、料理教室と若葉学級の二つに通うことにした。どちらも同じくらいの新米の主婦が大勢集まって来るだろうと思っていた。

「友だちもすぐ出来るかも知れない」と期待で通い始めた。若葉学級第一回目に行って驚いた。まず人数が少ないことにすぐがっかりした。最初の動機が内容や趣旨は二の次で、友だちが出るのと、大勢の人と出合えるのを期待していたのだから、その落胆は大きかった。でも内容はすぐよかった。だから第二回目も来ようという気持ちになった。

今私には、少し先だけ子ども達の教育問題等、今聞いてピッタリだった。妊娠、出産、育児の話、営などには干渉しないこと。以上の基本原則にそって全員の活動を通し、町内三校PTAは勿論、町民の方々全員「子どもの幸せ」を願う一つの輪になってそれぞれの場で連絡を密にしながら活動していただくことを念願致しておる者です。

清流

わが国のPTAは、新しい教育制度が施行され、文部省の指導や普及活動により、昭和二十三年四月には全国小・中学校の八二%の結成率に及んだよう

す。その後幾多の変遷を経て三十余年の歴史を辿って現在の姿になつておる訳ですが、最近数多く耳にする、少年非行、子供の暴力など学校任せだけで良いものでしょうか。また子供の家庭教育は誰れが中心になるべきでしょうか。と私は、ここ数年役員・会長の立場にある者として、つくづく考えさせられます。ここでもう一度PTA発足当時の目的であった「児童生徒の健全な成長をはかる」と言うこ

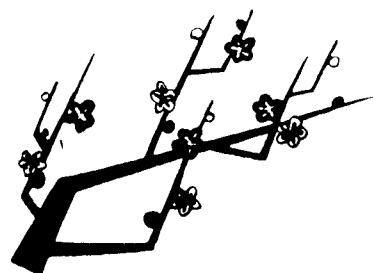


大熊町連P会長 斉藤重征

PTA活動を原点に戻して

とについて会員一同で再確認し合つて認識を一層深めていく必要はないものでしょうか。子供をすこやかに育てるためには、家庭・学校・社会のいずれの場においても、それぞれ適切な教育と、三者の緊密な協力と関係諸

機関との連携が必要な事は言うまでもなく地域総ぐるみで児童生徒の健全育成運動を進めるべきであると提唱致します。またPTAとして目的を果すためには、組織や活動を反省し、原点を忘れることなく、正しい方向づけのもとに活動を展開することが望ましい姿ではないでしょうか。



- (1) 民主的なルールにしたがって運営実践されること。
- (2) 特定の宗教・政党にかたよらないでPTAの自主的な意志によって行うこと。
- (3) 学校の管理・運営に干渉しないこと。反面PTAの人事・運

そして私のような核家族で夫と二人だけの生活で、親族、近隣、家族とのつき合いをどのようにすればよいか、作法も知らない。身近に教えてもらう人のいない者になって、とても身につく話だった。二時間話を聞いていると「ああ今回も来てよかった」と思うのだった。

先生もいろいろ受講生の意見を聞いてくださり、楽しくやれるようにという心配りをたえず配ってくださっている。自分が聞いたたり見たりたいことを希望すれば、先生はそれを検討し考慮してくださっている。自分の意見がはねかえってくるやりのある学級である。

私のように家にいて、夫を通して外の世界のことを吸収するだけでは、たしかに楽だけど何かひとつ物たりない気がする。大いに利用して、自分の生活、人生に少しでもプラスにさせられたらと思う。少しでも多くの人達に若葉学級のことを知っていただき、同じ新米主婦どうし、楽しく一諸に学んでいきたいと願っています。

私の希望

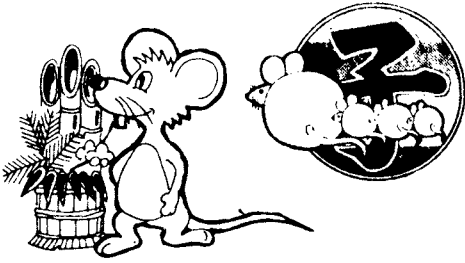


昭和47年生
壬子

下野上一区 松本朋子

しかし、ねずみは体が小さくても、ちえがあります。私も体は小さくても、かしこく、心のやさしい人になりたいと思います。

今年は何の年か分かりますか？そう、ねずみ年です。私の年はねずみ年なのです。私の背は小さく小学三年生ぐらいにしか見えません。全くねずみ年にふさわしい背です。



新年と言えれば初日の出を思い出します。海から顔を出す大きく真っ赤な太陽と小さなねずみとは、比べものになりません。

たいです。

私は音楽が大好きです。

学校から帰るとすぐ、エレキトーンをひきます。エレキトーンは習いはじめたばかりですが、いくらか上手になりました。兄が家にいない時は、音を大きくしてひきますが、いる時は出来ません。「うるさい、小さくしろ！」と、しかられるからです。去年はジュニアオリジナルコンサートで優秀賞をとりました。

今年が小学校最後の年です。何事もがんばり、下級生から親しまれる人になりたいと思います。

明日に向って



昭和35年生
庚子

大和久吉 岡文弘

と考えることがある。何かと制約の多い生活ではあるが、ただ制約されているからこれもできない、あれもできないと考えるのなら目標を持ち、目標の達成に向って制約された中で努力する必要があると思うのです。

目標を持って、たとえ成し遂げられなくとも、目標に向い努力することに価値があるから。大学を卒業し、社会人としての生活が始まったわけだが、学生時代の自由な環境と違い、毎日与えられた仕事だけをこなして、ふと我に帰ると、自分はこれではないのか？今やらなければならぬことが他にもあるのではないのか？

尊敬される父親に



昭和23年生
戊子

熊川松本光清

新年明けましておめでとうございます。町民皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。

私にこのような機会を与えて下さり光栄に思います。私も三度目の子年が来てしまいました。

多くの人の意見を聞くことが自分自身のことを考える上で重要なことであるからである。しかし、決して人生を決め急ぐわけではなく、いつも少年のような自由な発想の基に、多くの人の意見を参考に少しずつ修正を加えて行きたいと思うのです。

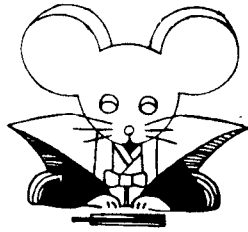
今年が社会人として二年目でもあり、何んとか過ぎ去ってしまっただけを反省し、今年が充実した年にしたいと思えます。そのためにも、青年会・青年学級活動に積極的に参加し、人との出会いの場を多くし、また自分の目標達成のために微力ながらも日々努力したい、明日に向って。



- わが家は、祖父・父・そして私と三代が子年です。私は新年になると、いつも、今年こそは良い年でありますように、「悔い」が残らない年になるようにと願うのですが、毎年同じことの繰り返しのような気がします。
 - 特にこの数年の間は悔いの残る年になっていました。自分自身は、精一杯頑張っているつもりなんです。努力が足りないのだと思っています。私の仲人であり、人生の鏡としている故吉田農夫先生に、私は次のような言葉を教えられました。
 - 一、何んでも良いから多くのことを吸収し血や肉としろ。
 - 二、家庭は明るく。
 - 三、他人より苦労しろ。
 - 四、人生は努力あるのみ。
- これらの事項を実行することによって、自分のエネルギーの源になると、私はこの言葉を一生守り続けたいと思う。自分の職業である農業に対しての取り組み方には、まだまだ甘さがあります。専業として生き残るために、子供達に対して将来誇り、尊敬される父親になるために、私の人生に悔いを残さないために、私は努力をしながら歩みたいと思う。最後に私の好きな言葉は、「忍耐」「努力」「真心」

新年を迎えて

年代ごとに子年生まれの方々にご執筆いただきました。それぞれ、人生の楽しさや役割などをかみしめながら新しい年を迎えられたことと、思います。町民の皆様と共に喜び申し上げます。



明けましておめでとうございませう。昭和五十九年の新春を迎え、今年こそよき年でありませうようにと、神棚に手を合せ静かな正月の朝を迎えました。光陰矢の如しというがいつしか年を重ね五回目の子年を迎えま



大正13年生
甲子

還暦を迎えて

熊二区朝田政好

昔からいわれる還暦というところで老人の仲間入りする年になりましたが、昔は人生わずか五十年今は平均寿命が延びたのだから、還暦ももっと後に七十歳位にすらすべきだ。などと暦に反発したくもなり、いつまでも若くありたい気持です。だが現実として、今人生の一つの節目に立って、今まであゆんできた己の姿をふりかえり、反省し、これからの人生を悔いのないものにしななければならないので

あります。袖振り合うも他生の縁という諺があるが、終戦後家内と二人で大熊に居を構え三十六年になりました。この間に多くの方々との出会い、これも生まれて持った縁というものでしょうか。そして先輩友人のご指導・激励を戴き果樹専業農家としてなんとか人並みにやれるようになりました。戦後私達が梨作りを始めた頃は物資の不足時代で、作ればどんなものでも売れた時代でありました。今は物が豊富な時代に変わり、美味なものではなければ売れない時代になり、梨も品種改良が進み、長十郎・八雲・早生赤などの品種か

なく、四十代・五十代の社会人も同じ様な傾向を示しているのです。私は此の荒廃した精神にどうしてもあたたかい親愛の心を復活させなくてはならないと思うのです。我々は親愛な心によって結ばれこの同志が協力して、小さくても、ここから出発すればと考えるのであります。一年の計のみならず五年・十年の計画をたて、自己の充実につとめると共に協力して更に他にも拡充していきたくと考えております。子年の新年にあたり心を新たに町政発展と町民の皆々様の「しあわせ」のため奔走して参りたいと思ひます。



昭和11年生
丙子

豊かな心

町末 永精 一

明けましておめでとうございませう。新年にあたり投稿の機会を得ましたことを光榮に存じます。一年の計は元旦にあり、一日の計は朝にありは、もう聞き古された格言ですが、新年になりますと、どう云うものか、聞き古された他の言葉よりも、此の言葉が一番びつたりと正月の気分にあう様でございます

います。私は毎年の様に新年になりますと希望を新たに一年の計画をたててきたものですが、ふり返ってみますと、その一年の計画が計画どおりに達成された年は一度もありません。しかしそれにもこりず、元旦になると、今年こそはと、あれこれ計画を立てずにはいられません。これは新しい一年を前にして、気分が改まって、なんとなく、希望に満ちるからであらうかと思われませう。さて私は「およそ事業と云うものは、一人の力では出来るものではない。必ず皆の協力がなくては成しとげら

れない」と常に考えております。戦争によって焦土と化した様な東京も今では目を見はるばかりの発展を示し、当時の面影はどこにも見ることが出来ないばかりか、焼けない戦前よりもはるかに、大発展をしております。これは各自のたゆまざる努力によりますが、個人の努力には限界があつて、皆の協力がなくてはこんな発展はなかつたと思う。ただ残念なことには、戦前の様な「豊かな心」「あたたかい心」がなくなつて、それが復旧発展していかないことです。何事にも性急であつたたく、心に落ち着きなくなつて、我利我利根性がはびこつた。その結果が青少年の非行・不良化としてあがりますが、これは青少年ばかりでは

ら、新水・幸水・豊水の三水時代となり消費者の嗜好も、昔は酸味のあるものが好まれましたが、現代の人達は甘い味を好み、時代のうつり変わりと共に、くだもの味の好みが変わるようです。今の子ども達が大きくなつたときには、どんな味のくだものがいいか、どんな味のか、どのものが好まれるのでしょうか？ その答えの出る頃、私の年齢は喜寿か米寿の頃になるでしょう、その頃まで頑張りたく、五十の手習でおぼえたゴルフで体を鍛えていきます。



健康は一生の宝

熊二区 石橋 ヤスヨ



明治21年生
戊子

明けましておめでとうございませう。新年にあたり私のような年老いた者が投稿の機会を得られましたことを光榮に存じます。私も今年で七回目の子年を迎え今年も健康で良い年でありますよ

うにと祈りながら元旦の日を迎えました。ふりかえってみますと私が熊町小学校の尋常科と高等科を経て、結婚、そして主人の仕事上北海道に渡り士別、余市に二十年間住みその後大熊町に帰って来て農業に足を入れ、今年で八十四歳になりました。その頃の農業は今までのような機械化農業と違い全て手作業でしたので大変なもので、今思ひ出すと夢のような気がします。これも健康でいたからだとい……

健康の大切さをかみしめております。現在は、老人の皆様と仲良く高齢者大学で講話を聞いたり、近所の友達とお茶を飲んだり、長生きして本当に良かったと思つて居ります。また、私の信条として
一、三度のご飯を規則正しく食べること。
二、寝る前にテレビ体操して十分に睡眠をとること。
三、部落の人と交流して自分の生活を楽しくそして仲よくすることを守り生活しております。最後に町民のご健康とご多幸をお祈りいたします。

顔を見る楽しさ



明治33年生
庚子

下野上二区 武田 アキ

明けましておめでとうございませう。めぐりめぐって子年を迎えること八回目。なんだかあつという間に過ぎ去って、大熊の最高齢者の一人になってしまった。よくもまあ九十六歳まで無事で生き長らいたものと神に感謝しております。老いても新聞の見出し程度の字

は読んでおります。思い出せば、私の小さい頃、子守りがいやで学校に行つたおかげで、今でも漢字が読め新聞も読める。本当に親がありがたいと感謝しています。私にここに嫁ぎ、夫に先立たれた土方をしながら子供達を育てたが戦争でとられ死んでしまった。どうして自分の子供だけ戦争で死ぬのかと、世の中で一番不幸であると思つづく神を恨んだものだった。現在は、歩行困難だが、みんなにやもらって顔を見るのが、なによりもの楽しみに生きています。諺に「親孝行したいときには親はなし」というのがあるが、親孝行するには、金はいらない。なんば美味しいものを食べさせても、言葉・心遣いが悪ければだめである。言葉やさしく、心よく接するこ

とである。

また、体を大切にして、病氣や怪我なくして働けば、これこそ本当の親孝行ではないでしょうか。私は、どうして長生きしているのだろうかと考える時、美味しい物を食べないせいではないかとつくづく考える。美味しい物を食べると長生きはできない。大熊一の高齢者となって、生きているのがすまない気がするが、もっとも、もつと長生きして、家族や若い人達の顔を見て、何年も高齢者一番の番付けを守っていきたいもんだとつくづく思っている。

なかよし教室

大野小六年 小山 裕之



小の時の友達にあえたりします。なかよし教室に入ってよかったです。と思います。

なかよし教室のた二作りに参加して

熊町小六年 秋本 崇



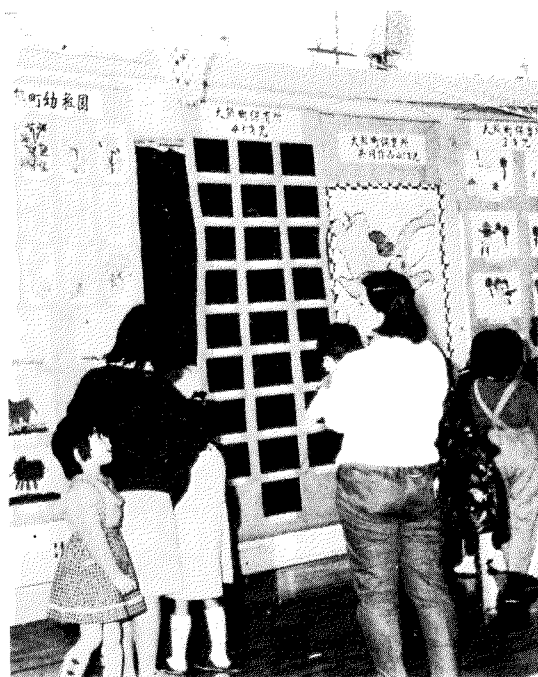
十二月十八日、公民館に凧作りの先生がきて、色々と、教えていただき、始めに、竹の皮をむく練習をした。実習に入って竹を十字にし、しょうじ紙をのりではりつけ、ひし形の凧を作った。ひし形の凧は、とても簡単に作れた。次に、ゲイラみたいな凧は、いがいとむずかしく、苦勞した。早くできて、外で自分の凧を飛ばしている人がいた。昼になりみんな楽しく、弁当を食べた。みそ汁を作ってもらい、ごちそうになった。自由時間には、みんな雪合戦をして遊んだ。凧は色めをする人がほとんどいなく、みんな自分で作った凧を飛ばしていた。よく上った凧やなかなか上がらない凧があったり、そのうちぼろぼろになって、こわれてしまった凧もあった。最後にそうじをしてから、先生のお話を聞いて終わった。とてもおもしろかったのもっと凧を作りお正月には、手作りの凧を飛ばしてみたい。



ぼくは「なかよし教室」に入っているいろいろな行事に参加している。今年春には、葛尾村の五十人山登山の時、頂上でドッチボールなどをして楽しく遊んだ。夏には、いわき市の子供の村に一泊二日の集団宿泊に行きました。一日目の夜はキャンプファイヤー、次の日は竹のふえを作ったり、カレーを作っておいしく食べたり、いろいろなことをしました。秋になって、町内の文化財見学で大川原の道平遺跡や熊川の女迫遺跡に行きました。社会科の勉強になったなあと思いました。なかよし教室に入って約一年半になります行事に参加すると楽しいことや、勉強になったり、熊

文化展

書画展などにぎわう



大熊町公民館、大熊町文化団体連絡協議会主催の大熊町文化展が去る十一月二日から四日まで大熊町公民館と第二体育館で開かれた。公民館には絵画、写真、書道、生け花を展示、第二体育館には園児・小・中・高校生の絵画、書道、手芸工芸、盆栽、菊花などずばらしい作品、一千点以上が展示され訪れた観覧者たちを楽しませた。

また、この文化展を開催するに当り二、三年前から文化団体の発足が叫ばれていた大熊町文化団体連絡協議会が発足した。

この会は各文化団体間の連絡協

調により、会員相互の親睦を通じて文化の発展を図り、生活文化の向上に資することを目的に組織された。設立総会は、十月十七日各文化団体代表者三十五名が出席し開催され、文化展及び今後の事業について話し合った。役員は……

顧問 町長 遠藤 正
教育長 太田 芳一郎
館長 志賀 友定
会長 佐藤 祐禎
副会長 常盤 利昭
書記 佐光 美奈子
書記 木村 末永 一夫
監事 木村 玄・佐藤千和子

公民館見学

熊小四年 佐々木敦子

先日は、おいそがしいところ見学させていただき、ありがとうございます。ございました。

習字や、絵や、活花、植木その他いろいろ展示してあり、上手な人の作品を見て勉強になりました。私は、公民館の中に図書室があると、分かりませんでした。

そして、びっくりしたことは、図書室に本が一万さつぐらいまであったことでした。私がそれを知っていたなら、もうたぐさんの本を読んでいたと思います。ぜひ、今度読みにいきたいと思っています。

いろいろと分かりやすく、説明してくれましたので、私達はよく公民館の様子などが分かりました。仕事がいそがしかったのに、私達のために説明してくださって本当にありがとうございます。これからも、町のためにがんばってください。私達も、負けずに一生けんめいがんばります。

公民館を見学して

熊小四年 松永 久

この前は、公民館見学させていただきました。ありがとうございます。第一会場では、入口から図書室へ入ってびっくりしました。

それは、学校の図書室は、いすとかがいっぱいあって本がその分

ないのです。しかし公民館の図書室には、本がたくさんありました。二階は、さし木がありました。花びんに花がさしてあって「すごいなあ」と思いました。

第二会場について、最初に見たのは、大きくてきれいな菊でした。いっしょけんめい作ったんだと思います。中をみていたら、とてもまい習字がありました。すごいなあと思いました。昔の物もあっておもしろかったです。ほんさいもりっぱなものばかりで、か

れからもほくちちもたくさん公民館を利用していきたいと思います。どうもありがとうございます。

「お早よう」「今日は」「今晩は」の一声かける挨拶運動を
広げましょう



えびす講市剣道大会 に参加して

剣道スポーツ 原 和之

いよいよ個人戦が終り団体戦。ぼくは「さあ、がんばらなくちゃ」と思いながら出番を待っていました。

しかし、出番が近づくにつれて「団体戦の経験がなかったんだ」ということを思い出し、とても心配になりました。

みんなにはげまされながらがんばりました。二回戦で負けたときは、本当にくやしかったです。いっしょけんめいやったんだと思いつつ、着がえしました。

表彰式の時、ぼくは「選手になれたらいつか必ずステージの上で賞状をもらおうぞ」と思いました。帰りのバスの中で「もう少し動きを早くしなくちゃ」と思いました。

あいさつは
まず家庭から

研修レポート

集団宿泊研修に行つて

大野小六年 持立 美紀



夜はキャンプファイヤーをしました。あかあかともえる火をかこんでグループの出し物をやったり校歌を歌ったり、楽しいひとときをすごしました。楽しく出来たのも、にわか雨がふった時バンガローにとまっていた人たちがぬれないようにマキにビニールをかぶせてくれたからです。それで次の朝わたしたちも次に来る人のためにマキを組んできました。

次の日、朝食がすんでから竹ぶえ作りをおそりました。みんなとても上手に出来ました。私の音は音でませんでした。

ローラースケートを、はじめやりましたが歩くのがやつとで、上手な人は、私が一周する間に二周も三周もしていました。

それから海に行き、カレー作りをやりました。私のグループは、危くシチューになるところでした。おいしくできました。

このキャンプで私は、学校や家では経験できなかったことを学び新しい友達もたくさんできました。小学校最後の夏休みにとていい思い出になりました。

県婦人教育指導者 研修会に参加して

研修生 高倉 ミナ

研修生 横川美保子

去る四月公民館からの依頼で、前期二泊三日の日程で県教育委員会主催による研修会に参加しました。会場は国立磐梯青年の家で研修人員は県内各地方より約一〇〇名参加しました。主な内容は、一、婦人教育指導者としての心構えと活動のあり方。二、地域における育成活動の現状と課題。三、婦人の自立と婦人問題。四、高齢化社会に対応した生活設計。五、管内における婦人教育の課題と今後の学習活動のあり方等について研修してまいりました。

又、後期の二泊三日の日程では前期に宿題として相双管内における課題を、実際に年齢別に調査しそれを県内集計し分析して、これからの問題点をみんなで討議しました。規律正しい日程の中でこれらの婦人としてどうあるべきかについて講師、助言者のすばらしい先生方の指導のもとで研修が出来大変参考になりました。緊張の中でも県内各地の方々と宿泊を共にしているうちに心も知れて何を話しても共通することばかりでした。地域での活躍を期待して別れました。

このたび婦人指導者研修会に参加させて頂きました。これまで婦人学級や、婦人会活動に経験の浅い私に、研修の機会を与えて頂き何か重荷すぎましたが、婦人教育活動を自発的に学ぼうとこの研修に臨みました。まず感じたことは、参加者全員が生きてきてやる気、充分の自信に満ちた婦人が、県内全域から参集した一〇〇名の方々と、「出逢い、ふれあい、そして語りあい」があり、いつまでも分ちあえる友となる事が出来ました。この研修で規律正しい生活の中で、婦人の学習の必要性と主体的な活動の大切さを理解することが出来ました。後期の役割分担で、一番大役の記録係にあたってしまいい、今までにしたことのない経験もしました。研修の内容はいろいろな面で実にすばらしく、現代社会に生きる婦人の役割として、多くの学習のもとに、地域に輪を広げた活動がなければならぬと、感じる事が出来ました。この研修を終えて、先輩方の仲間入りをさせて頂き、身近にやれることからはじめ、健康な家庭作りと、明るい地域作りに役に立ちたいと思います。

スキー教室 参加者募集

◎第一回目 一月二十二日(日)

・場所 宮城蔵王えほしスキー場

・対象 中・高校生、一般

・会費 一人当り千五百円

・募集人員 四十五名

◎第二回目 二月十一日(日)

・場所 福島市高湯スキー場

・対象 家族

・会費 一人当り千五百円

・募集人員 四十五名

◎スキーバスの出発は、毎回大熊町公民館前、午前五時三十分です。

◎参加費を添えて、大熊町公民館(電話二〇六五番)まで申し込みください。

◎貸スキーもセットで斡旋します。

新生活運動標語

◎集会の時間を守り定刻に開会しましょう。また、欠席の場合は連絡しましょう。

◎限りある資源を大切に使いましょう。

◎廃棄物(ごみ等)の区別を適切にしましょう。

「中央リーダーズスクール」に参加して

浪高二年 志賀 秀子

七月二十六日から二十九日の三日間にわたって行われた中央リーダーズスクールに参加しました。この大会で私は、リーダーとは何か、何をするのか、など各県から集まったリーダー達と話しあいをしました。それぞれの各団の悩みとか、研究していることなどを議題として、いろいろと考えさせられました。この話しあいので気がついた点は、他の団のリーダー達は、自分の団を良くしようと、みんな一生懸命だったことに対して、自分の団は何もしていない、やることはみんな指導者まかせといった感じ

がして、とても残念だった。でも、これを機会にして、自分の団も他の団に負けないような団にしようと思いました。この他に、この大会ではリーダーとして、大切な体力テストが行われました。自分の体力は、リーダーとしてはまだまだ足りないことがわかりました。後期もまたあるので、それまでに体力をつけてがんばりたいと思います。この大会で、各県の人達と友達になれたのでとても嬉しかったです。新しくできた友達を、何らかのかたちで大切にしていきたいと

東北ブロック大会に参加して

浪高三年 門馬 由美

去る七月二十七日～三十日まで四日間、私たちは東北大会に参加しました。東北各県から約二十名ずつ合計一〇〇名が参加、会場となった宮城県からは特別小学生も参加したようです。

泊先の人は、みんな大変良い友達で知らず知らずのうちにうちとけて友達になれました。又おみやげに持っていった大堀焼きも喜んでもらえました。大会内容でオリエンテーリングなどは二時間ぐらいかかって仙台市内の史跡を捜しまわりました。高校生は少なく、中学生中心の大会だったので下級生の後をついていくのが精一杯でした。八木山動物園内の動物を時間内で分類する活動も思い出深い内

今日、大会初めての民泊があり私にも大きな不安があり、スポーツ施設に全員で寝泊まりするのところが初めて会った人の家に三泊四日も世話になるというのは緊張の連続でした。しかし私達がお世話になった民

内、分業する活動も思い出深い内

思います。

これからの暁スポーツ少年団の活動はもろん、みんなので一つの輪になって、話しあいの出来る楽しい大人の人達にも親しまれるようなスポーツ少年団にしたいと思えます。これからも、こういった大会は行われるので、いろんな人達に積極的に参加してもらいたいと思えます。

最後に、この大会で私は、いろんなことを考え、学びました。この大会で学んだことを参考に、リーダーとしてがんばりたいと思います。



容の一つです。

ここでは小、中学生にまけじと元氣だっと思えます。

小、中学生がいるということで、夕べの集いの中のキャンドルサービスは、夜光性の液体が中に入っているペンシル型の物を次々に光らせていったあの光景は今も目に焼きついてはなれません。

この研修を通じて大変勉強になりました。この成果を今後のスポーツ少年団活動に生かしていきたいと思えます。



各賞受賞者

スポーツ功労賞 受賞

野上三区 渡部 悟

永年にわたり大熊町体育協会の発展並びに地域スポーツの振興に貢献され、その榮譽をたたえ、去る五十八年八月二十一日川内村で開かれた県民スポーツ大会の席上スポーツ功労者として市町村体育協会相双地域連合会スポーツ功労賞を受賞した。

体育功労賞 受賞

下野上五区 常盤利昭
下野上三区 池田光雄

永年にわたり社会教育に功績のあった常盤利昭氏と池田光雄氏は去る五十八年九月二十三日大熊町で開かれた第二十一回双葉郡総合体育大会の席上、社会体育功労者として双葉郡体育協会功労賞を受賞した。

常盤利昭氏は、大熊町体育指導委員長、体育協会監事として活躍
また、池田光雄氏は体育協会相撲部長として活躍、その榮譽をたたえられ今回の受賞となった。

体育指導委員功労者賞 受賞

下野上五区 大竹 保
下野上三区 片岡重行

永年にわたり体育指導委員として、地域スポーツの振興に貢献された二人に、その榮譽をたたえ、去る五十八年十一月十二日会津若松市で開かれた体育指導員研究大会の席上、体育指導委員功労者として榮譽ある功労者賞を受賞した。

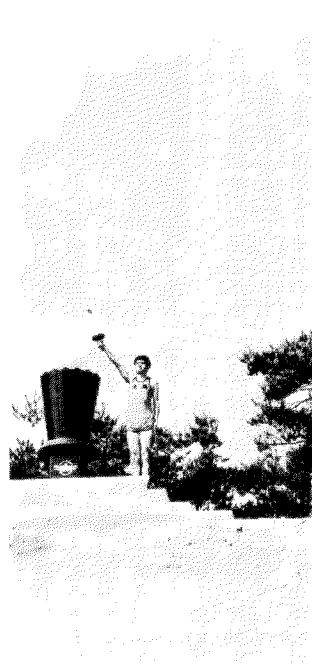
大竹保氏は、体育協会野球部長、体育指導委員副委員長として活躍、片岡重行氏は、大熊町体育指導委員副委員長として活躍、その榮譽をたたえられ、今回の受賞となった。



スポーツ結果

郡総合
体育大会
相撲ほか四種目に優勝
総合で三位

郡内町村民の融和とスポーツ精神の高揚を図ることをねらいとし、第二十一回大会は九月二十三日十二年ぶりに地元総合グラウンドで開かれた。大熊町選手団二百余名は地元の期待をうけ十六種目に熱戦を展開し、優勝五種目と郡内の成績をおさめたが、総合では惜しくも三位にとどまったが、圧倒的な強みを



社会体育実施状況

開催日	行事名	付記	開催日	行事名	付記
4.16	ソフトボール審判講習会	3級資格者			1位 志賀かおり 2位 渡辺典子 3位 山口タエ子 3位 小野寺伸子
4.24	親子ハイキング	坂下ダム周辺	7.3	家庭バレーボール大会	優勝 小入野 準優勝 夫沢 3位 熊
4.29	壮年体力測定	夫沢地区	7.10	壮年ソフトボール大会	優勝 駅前 準優勝 熊 3位 町、夫沢
5.3	中学高校新入生歓迎球技大会		7.13~27	水泳教室	
5.7~6.25	軟式テニス教室		7.24	町民テニス大会	硬式 男子 1位 小林・浅野組 2位 井上・高野組 3位 若宮・相原組 女子 1位 松尾・長尾組 2位 安田・中山組 3位 安田・佐藤組 軟式 男子 1位 小桜・菅家組 2位 田熊・七鳥組 女子 1位 安田・佐藤組
5.7	大熊町スポーツ少年団入団式		7.26	中学・高校生バレーボール大会	
5.15	桜祭少年ソフト大会	熊小出場	8.5	スポーツ少年団球技大会	
5.18	ミニゴルフ講習会		8.6	双葉郡町村対抗野球大会(大熊町)	優勝 富岡町 準優勝 葛尾村 3位 大熊町・浪江町
5.29	春季家庭バレーボール大会	優勝 睦バレークラブ 準優勝 トミーバレーボール愛好会 三位 大熊ママさんバレー	8.21	県民スポーツ大会(川内・富岡)	優勝 卓球 準優勝 バトミントン ソフトボール バレーボール
6.5	ゲートボール審判講習会		9.4	町民体育祭	総合グラウンド 優勝 熊 準優勝 小入野
6.19	町民卓球大会	団体戦 一般男子 1位 東京電力 2位 東電環境エンジニアリングA 3位 " B 一般女子 1位 東電環境エンジニアリング 2位 東京電力 3位 トミー 個人戦 一般男子 1位 大野光幸 2位 富永信男 3位 柳井誠 松本修守 一般女子			

開催日	行 事 名	付 記
		3位 下野上 4位 熊川 5位 野上 6位 夫沢 7位 町 8位 大川原 9位 駅前
9.17	秋季弓道大会	男子1位 滝田四子夫 2位 宮本吉克 3位 杉内憲成 女子1位 元木あや子 2位 伊藤洋子 3位 本多睦子
9.23	郡総合体育大会(大熊町)	総合 3位 優勝 相撲 バレー ボール 男子 家庭バレーボ ール バスケットボ ール バトミントン 準優勝 陸上男子 3位 陸上女子 柔道 庭球男子 卓球男子 女子バレーボール
10.10	職場対抗 ソフトボール大会	優勝 ホシューズ 準優勝 熊一區 3位 中央ソフト愛好 会 夫沢アトム
10.29	部落対抗野球大会	優勝 夫沢チーム 準優勝 野上チーム 3位 駅前、熊チーム
11.3	秋季 家庭バレーボール大会	優勝 大熊ママさんバレー 準優勝 トミーバレーボー ル愛好会 3位 双葉バレークラブ
10.15 ~11.26	軟式テニス教室	
11.6	町民ロードレース大会 ジョギング大会	一般男子 高校男子 1位 志村充男 梅田敬之 2位 平子幸男 前田 潔 3位 斎藤 猛 大川原 巖 壮年40歳代の部 1位 成田洋康 2位 鈴木正美 3位 富山博明 壮年50歳代の部 1位 阿部 希 2位 松本 保 3位 山田浩二 小学男子高学年の部 1位 林崎一敏 2位 愛場 勝 3位 古山 岳 一般女子の部 1位 長谷川里江 小学女子高学年の部 1位 高野まゆみ 2位 武沢智美 3位 佐藤鈴香 小学女子低学年の部 1位 愛場めぐみ 2位 古山 泉 ジョギングの部

開催日	行 事 名	付 記
		1位 松岡保夫 2位 志賀秀陽 3位 佐藤恒寿
11.27	町民ゲートボール大会	優勝 大和久寿会B 準優勝 下野上一区老俱 3位 熊一區老人クラブ 4位 大和久寿会A
12.4	町民バトミントン大会	一般男子S1部 優勝 山田保夫 準優勝 飯田武利 3位 吉田忠幸 " 白井文人 一般男子W1部 優勝 山田、白井組 準優勝 飯田、鎌田組 3位 横山、泉田組 " 吉田、末永組 一般男子S2部 優勝 石田齊久 準優勝 岡田浩寿 3位 橋谷田充則 " 伊藤 求 一般男子W2部 優勝 岡田、佐藤組 準優勝 室星、古田組 3位 石田、村田組 " 泉田、吉田組 一般女子S 優勝 水野三知子 準優勝 渡辺栄子 3位 松永三枝 一般女子W 優勝 高橋、杉内組 準優勝 渡辺、牛尾組 3位 清宮、千徳組 " 小山、川本組 中学生W 優勝 中野、松本組 準優勝 竹内、掛田組 3位 橋本、吉岡組 川 八代組

スポーツ少年団関係

1. 剣道県総体予選
6月12日(小高町)30名参加
2. 県総体 ソフトボール相双予選
7月10日(富岡町)20名参加 熊町小学校 3位
県総体ミニバスケットボール予選
7月10日(小高町)20名参加 大野小学校 優勝
3. 少年団体ジュニアリーグ研修会
7月26日~28日(県海浜青年の家)
中学・高校生 白戸康也、根本芳春参加
中央リーグスタール
7月26日~29日(秋田県田沢湖青少年センター)
志賀秀子参加
5. 東北ブロックスポーツ少年大会
7月27日~30日(仙台市レジャーセンター)
スポーツ少年団員13~18歳
山田秀人、鎌田雅弘、門馬由美、佐藤徳子参加
6. 県総体バスケットボール競技
8月6日 20名参加 3位
7. 福島県スポーツ少年団ジュニアリーグスタール
8月11日~13日(福島市体育館)小5~中2男女
鈴木裕平、広島美穂子、田熊清貴、赤羽ひろ子参加
8. 全国スポーツ少年大会
8月1日~6日(愛媛県北条市)
水永一夫、沢原 寛参加



平くぼ交歓会

剣道スポ少 伊藤 潤哉

十一月十三日に、平くぼと交流
大会をやりました。

五十七年は、大熊でやりまし
た。しかし五十八年は、平くぼの方
でやりました。

はじめ、先生方のお話などを聞
いてから準備体操をしました。そ
の次にすぶりをしました。それか
ら試合をしました。

はじめの方は大熊が勝っていた
のに、後の方になってくるとだん
だん負けるようになってきました

開会式には、平くぼの中学生は
来ていなかったけども試合をはじ
めてすこしたって中学生たちがき
ました。

中学生の試合は、平くぼの方が
勝ったみたいでした。

しかし、大熊の方が勝った数が
多いと思った。

とってもいい試合でした。
また来年もやりたいと思います。

名 称	単位団員	指導者	合 計
大野小	70名	7名	77名
熊町小	82名	6名	88名
剣 道	96名	12名	108名
柔 道	24名	10名	34名
暁	28名	4名	32名
合 計	300名	39名	339名

大熊町の みなさんよろしく!

大熊町の福島県立双葉農業高等学校に転入されました方々に、あいさつをいただきました。
今後共、地元高校発展のためになにかとお世話になります。町民のみなさんよろしく!



学校長 佐川 芳雄



「先生には関係ないよ、なにをするのも、おれの勝手だ」……最近生徒を指導していて、ちょいちょい耳にする言葉である。つまり、自由とわがままの区別がつかない生徒諸君がふえているということがわかる。

「自由とわがままのさかいは、人の妨げをなすとなさざるとの間にあり」と福沢諭吉は「学問のすずめ」という中で書いています。つまり、自由とわがまま勝手の境界はどこにあるかという、他

人の妨害をするところにあるわけで、だれでもわかることがわからない。それが非常に残念であるわけです。

学校は規則がやたらに多いとか、生徒の自由を余りにもしばりつけるといった、親さん達の声も聞きますが、私はそのようには考えません。むしろ、社会全体が本当に自由に生活するために規則があるわけですから、社会生活(学校生活)を送るすべての人が積極的にルールを守って生活することがよりよい自由を獲得する結果となるものだと思っています。

本校に着任して九か月、実に堅実なそして真面目な生徒が多いのにびっくりしました。ほんとに四(五人)の自由をはきちがえた生徒のためにはずいぶん遠廻りしている面もないわけではありません。

私は常に生徒に対して「善は善になり、悪は悪なり」つまり「ならぬものはならぬ」の精神で、ある時は厳しく、あるときは優しく、無限の可能性を秘めた生徒一人一人大事にして立派な青年に育てて親さんにお返ししたいと願っています。どうぞ大熊町の皆さんの絶大なご協力を得まして、よりよい学校にしたいと考えておりますのでよろしくお願申し上げます。

教諭 小村 猛



転任して参りまして早くも九か月たちました。歳月人を待たず、時のすぎるのは早いものです。

現在生徒数は少ないが、農業専門高校として、歴史をもつ双葉農業高校にお世話になっていきます。衣食の一翼を荷うための基礎作りにあたる農業高校生を育む一人として、日々努めています。よろしくお願いたします。次の詩は必修クラブで作ったものです。

思い出影

春の光に
あなたの影は
あすかに震え
白く赤く色つき染めては
浮かんで来ます

それは冬の季節には
小さくも固く蕾のようでもかすかに震え 凍っていたのは
あなたの影でした

今は春 野には鳥が飛んで
田では水のどかにも
空と雲を浮かせては
日がな菜の花畑で
小蝶が舞うのです

白、白、黄色
黄色、白

そして菜の花の香りも漂うのです
学校の西側、田園地帯。梨畑、水田の中に小さな一群の菜の花畑が目に入りました。その黄色とモン白蝶の色彩が印象的でした。それを思い出して詩に作ったものです。美しい自然、いつまでも残しておきたいものです。

教諭 野地 雅晴



今年度の人事異動により、猪苗代養護学校より転動してまいりました。学校の所在地が大熊町と知り、最初に思い浮かべたことは、原発の町であるということでした。

目的は違いますが、大熊も猪苗代同様に多くの人が出入りしている活気のある町だと思えます。学校はもちろんのこと、地域の多くの方々と会い、自分を磨くとともに生徒の指導に力を注いでいきたいと思えます。よろしくお願いたします。

事務長 荒木 英明



大熊町熊町出身の私は、今回の

異動で地元校に勤務することになりました。地元故に知り合いの人も多く心強い限りですが、その反面何かと一抹の不安も感じしております。とにかく皆様のご支援を得ながら、双葉農業高校発展のために微力をつくす所存ですのでよろしくお願申し上げます。

用務員 渡辺 信一



今年度の異動により、遠野高校から双葉農業高校に勤務することになりました。

私は、四十八年四月から五十二年三月まで富岡町から現在勤務している学校に通学していましたが、そのころの大熊町とちがいが、あらゆる面で発展してきているのにおどろかされました。このようなすばらしい町に勤務することができ、大変うれしく思えます。現在、剣道スポーツ少年団の指導もしておりますが、まだ不慣れですので、町民の皆様の温かい指導とご支援のもとで、大熊の地に恥ぬよう努力していく覚悟ですので、よろしくお願いたします。



考えてみませんか 産地作りを

田村 信 雄(旧小泉)



郷土の皆さん明けましておめでとうございませう。

私は大野をあとにしてこの神奈川に住んでから、もう三〇年となり、現在は大根の産地として有名な三浦の農協に勤めながら農業一筋に取り組んでいます。幸い城ヶ島にも近く東京湾の入口で農業発展のために一身を投じています。

しかしここは露地野菜の産地で昔からの歴史も長く、かつそれぞれの農家には自分の考え方に個性があり、自信を持つ農家が多く、私のような地方者が入り込めるようありません。このような所に入っても私の考えを農家に伝え、かつこれが地場産業発展の一助になって、その利益がはつきりと現われるまでには容易な業ではありませんでした。

三〇年という歳月の間には本来に変化が多く、しかもここは露地野菜の産地であることから生産資

材費の投入は少なかったが、現在はビニール製中を使ったカボチャ、メロン、スイカ作りが浸透し、農業技術は急激に変化し、産地間の競争は激化し、更に全国の交通網の整備によって物の流通は季節感どころか産地差もなくなり、産地の潰し合いは年々激しく、今ではどうにもならないのは輸送経費の節減です。

品質の良いものがまわって量産が出来れば早速産地化することは容易であり、昔から適地適作といわれながら伸びないのは人間性がじゃまする所が多かったと思います。

三浦は昔から首都圏内で最も暖かく、しかも地の利を生かした農業は、冬の期間京浜地区への野菜の供給地として発展し、他産業を寄せつけない独壇場の時代は以前はありました。

しかし現在ではビニール製品の利用によって産地は大きく変わり、大根の産地の中にも青首大根のような小型のものが消費者に好まれるようになりまし。この変化が農民の心を動揺させ、産地の維持にも大きな影響がみられるようになりました。

郷土大熊町は原子力発電所の関係もあり、農家の労働力は昼間は

そちらに集中することから、優れた野菜は少ない所ですが、現在の土質、立地条件、気候等を詳しく調べ、総合的な検討の上で現地に適した作物を導入し産地作りをすることに於て大熊周辺はもった活気に溢れた村作りができると思は確信します。

幸い郷土の方々ほどなたも頑張り屋で忍耐力のある方ですから、人間性に調和のとれた作物を選び導入すべき時代が来ていることと私は思います。

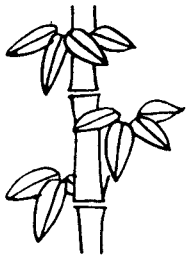
大熊産の梨がその通りです。産地を作り出すにはその周辺の方の理解と協力更に関係者の強い団結が必要です。

最後に郷土のご発展と皆さんのご健康をお祈りします。

なお皆さん上京等の折には是非足をのばしてお立ち寄りになって下さい。お待ちしております。

三浦市南下浦町金田二四四三

田村信雄さんは下野上北向小泉渡さんの弟で三浦市にあって農協に勤められながら農業に従事されておられます。昨年夏寄稿をのせることができました。お許し願います。



文化団体連絡協議会発足

会長 佐藤 祐禎

去る十月十七日大熊町文化団体連絡協議会の設立委員会を開き、各団体の責任者に集って頂いて協議しました結果、大熊の骨子がまるとりまして、設立総会に切替え、ここに大熊町文化団体連絡協議会として発足することになりました。

現在当町には約二十七の団体があり、同好の士がそれぞれの研究活動を行っております。その規模は大小はあるものの、求める所は常に一つであり、その真摯な態度は敬服に値するものがあります。

ただ各種団体の悩みの種は会員拡大の困難さにあります。この悩みをそれぞれ共通の問題として捉えてゆきたい。そうした思いがこの度の気運に繋った訳であります。

連絡協議会というものは、それぞれの既成団体の総括ということであり、そのためには各団体が完全にとまていなければなりません。しかしながら、まとまってない所もかながあるようなので、現在の段階ではその点を踏まえて啓蒙等市広い活動を展開してゆかなければならないと思ひます。

この会がさしあたって成さねばならないことは、

一、文化祭の実行協力促進であります。従来は、絵画・生花・書道・盆栽・写真等形のあるものの展示に限られておりましたが、これを

短歌・俳句・民謡・舞踊・詩吟の他の、形でなく動的なもの分野の発表会を持ちたい。
一、各種団体の横の連絡を密にし、一体感を強める意味の行事を行いたい。

①文化講演会 ②親睦を兼ねた懇親会等 ③視察研修等……
三、文化会館の建設促進。経済的に他町村より遥かに力のある当町において、こうした施設がないのはまことに残念であります。人間はパンのみに生きるに非ず、と云われます。勿論生活の安定が最優先されなければならぬのは云うまでもありませんが、その余り、心が索漠としてしまつては悲しい限りであります。高度成長経済によつてもすれば失われがちな、人を愛する心、信ずる心を自らの手で取戻さなければ人類の将来は悲惨な結果になることは火を見るよりも明らかだと思ひます。そういう意味において、心を豊かに生きるために、自らを高めてゆく団体に属することは全く素晴らしいことです。中には食わず嫌いの方もありません。心に区切りをつけて、ご自分のやりたいものがありましたら、その団体に早くお入り下さいませう、各団体毎に門を広く開いて皆様方のご入会を心よりお待ちしております。

文芸

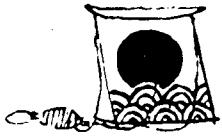


詩

雪虫

熊小六年 中野 貴代

寒い
空はどんより
底びえがする
一びきだけ
フワフワと
この寒い中
雪のように
まっ白い毛をつけた
雪虫が飛んでいた
そっと つかんだのに
死んでしまった
かわいそうなことをしたな
雪虫 ごめんね



ごみ箱

熊小六年 小野 尚子

私たちの教室に
大きなごみ箱が一つある
水色と白の
とてもきれいな
ごみ箱だった
ふたは水色
なのに黒っぽくなってしまった
鉛筆のしんのけずりかす
習字のすみがこびりついたのだ
あらっても あらっても落ちない
中から時々 いやなおいのする
時もある
きれいに きれいにたわしで洗う
ごみ箱は うれしそうに
教室に帰ってくる
とてもきれいになって
ごみ箱さん ごくろうさん

小さな芽

熊小六年 和田 裕美

去年 花の種をまいた
私は 小さな芽が出た
私はうれしかった
毎日、毎日 水をやった
ある日 とてもおもしろい本を読
んでいた
ふとまだ水をやっていないことを
思い出した
「あとでやろう この本を読んで
とうとうその日 水をやらないで

友達

熊小六年 酒井 純子

友達
みんな いい人ばかり
私の なやみを
パッと けしてくれる
まるで まほう使いだ
私だって
今に きっと
友達のなやみを消せる
まほう使いになるんだ

短歌

相田 美恵子

意識なき舅の枕辺声落とし呼びか
けのし叔母に涙誘はる
病む舅よりはるかに老いし吾が父
の誕生日の夜電話をかけぬ
飯田 良江
さ庭辺に凌宵花の咲ける家喪の花
運ばれ人ら行き交ふ
庭芝の伸びたる中を抜足に猫通り
すぐ霧雨に濡れ
松野 和人
離れたる甲矢を早気とふと気付き
乙矢を番へし射場暑かりき

夏日さす審査の射場に放ちたるそ
の瞬間を思ふときあり
郡司 勝雄

ひとところ夕陽残れる前山に寒蟬
の声せわしげに聞こゆ
湖の面に突如として波紋たち竿糸
鳴りて銀の鱗光る
小林 かおる

ふしぶしを紅にそめて秋海棠は頭
をたれてひそやかに咲く
道のべのねじ花ひとつ娘はみつげ
そっと根をぬき持ちかへりくる
佐藤 祐禎

積み上げし炭突き抜けて若竹のト
タンの下を横に枝展ぶ
送りても済むべきものを米野菜積
みてはるばる娘の町へ来し
野辺 百合

砂浜に小さき足跡点在しふと遠き
日の夏を思へり
大波に足さらわれて溺しを青く美
しと今も記憶す
鈴木 百合子

エンジンの音背に残る一日の草刈
り終へし後の安らぎ
ひそやかにりんどうの咲く道のべ
をパスに揺られて白根山をゆく
永岡 清子

生まれたる仔牛を見つめる親牛は
目をうるませて飽かず舐めをり
友達との二十余年ぶりの再会は思
ひ出話尽きることなく
本多 睦子

夫と共に初段審査の射位に坐し高
鳴る胸にて弦音にききいる
雪渓を水源となすせせらぎに子ら
は手を入れ我慢くらべす

町民憲章



健康で楽しく働ける 豊かなまちを つくりましょう
みんなで助けあい 明るいまちを つくりましょう
きまりを守り 平和な住みよいまちを つくりましょう
自然を愛し きれいなまちを つくりましょう
進んで学び 香り高い文化のまちを つくりましょう



吉岡 友子
盆休みの子らそれぞれの友ありて
われと語らふ時間なかりし
あぜ道で農事相談学べども梅雨冷
えに不安と苛立ち覚ゆ
渡部 富久子
汗しつづ芝生の手入れする夫の刈
り残したるネジバナの花
朝な夕な猫の名を呼び餌を与ふ吾
のしぐさは亡母に似通ふ



昔の家庭教育 規範について

- 今どき、昔の家庭教育を持ち出して、古くさいことを言うな、なんて叱られるかも知れませんが、温故知新という諺のとおり、古きをたずねて新らしきを知ることが、人生にとって重要なことだと思えますので、ここに敢て「樵育草」より引用し、私見をのべてみたいと思えます。
- 一、うそやいつわりを言ってものをかくすこと
- 二、父や母からいつけがあるとときに返事をしないで口返事をすること
- 三、祖父や祖母はいうまでもなく年をとった人をないがしろにしてあなどること。
- 四、自分の思いどおりに気ままをして、かきそめにも短気をおこしたりかんしゃくをおこすこと
- 五、自分の身分や地位に対して不相応の良いものを好み欲しがること
- 六、自分の家に使っている人に対して愛情がなく無理なことを言ったり勝手きままなことを言うこと
- 七、虫けらなど小動物をなんでもないので殺したり他人に対してけんかをふっかけたり口論をすること
- 八、何によらずすぐに自分の意見をおしつけおしとおそうとする
- 九、他人の悪口をいってさげすみ自分をえらくりっぱな人であること
- 十、男は男として女は女としての行儀を知らないで口一ぱいのこと
- 十一、自分の家のそれぞれの人の分担の仕事をの性に性根をいれずしてきとうに仕事をすること
- 十二、手習(かき)読書(よみ)算術(そろばん)のけいこをおこたり不精をすること
- 十三、火あそびなど火をまつに扱いかつ後始末をしないこと
- 十四、皆さん/どうでしょうか。このわずかな十三のきまりが、子供の基本的な生活習慣を身につけるための道しるべであった。
- 十五、私など、戦前に生まれた者にとってはまさにこの教えそのもの

とおりに躰けられたものであった。私の子供時代をふりかえってみると、父とは実にこわい、しかも威厳に満ちた存在であったし、一方、母はきびしい中にもやさしく愛情をもって見守ってくれたように思えます。

夕食のときなど、一番上座に位置して大きなお膳箱の前に折目正しく正座して、家族が席につくのを待っている父の姿は私にとって強烈な印象として目のあたりに残っております。

昔が良くて、今は駄目というのはありませんが、一家の大黒柱としての父親の威厳ややさしい母親の愛情は以心伝心、子どもの体の中にちゃんと培われてきたように思えます。

子は「親のうしろ姿で育つ」とかいふが、

こういう諺も昔にあてはめるところができるように思えます。そのように考えると、昔がわるくて今がよい、ということはいきれないと思えます。

昔のよいところは、うんととり入れて学ぶべきだと思えます。

いや、殆んどがとり入れるべきでなからうか、と思えますが、いかがでしょうか。昔は親子ともどもそれぞれ分に応じた仕事や手伝いをするのが、何のこだわりもなく自然に行われることによつて親子の堅い絆で結ばれていたようにも思われてなりません。

下野上五区 N・T生

結婚相談所の お知らせ

農業後継者確保対策として「農業後継者結婚相談所」を昭和五十五年十月農業委員会に開設し、花嫁、花婿の確保に努めてきました。が、開設以来三年余を過ぎた今日、経済情勢の変化に伴い、尚一層の充実を図るため「大熊町結婚相談所」と改称し、農業後継者だけでなく町内結婚適齢者全員を対象とした相談所として五十八年四月から次のとおり開設いたしました。これを先にお知らせいたしました。再度お知らせいたします。

記

- 一、相談所は大熊町公民館内に開設されました。
- 二、報奨金等について

相談所を通して結婚した(結婚届書を提出した者)新婚夫婦及び媒酌人については次の各号に定める基準により支給されます。

- ① 配偶者の一方、又は双方が本町に住民登録を有している者
- ② 新婚夫婦には、一万円相当の記念品
- ③ 媒酌人には、一組につき二万円
- ④ 夫、妻のいずれも初婚であること

※結婚届書とは戸籍法の届書でなく相談所備付のもです。
※詳しいことにつきましては、公民館(二〇六五)へお尋ねください。

図書あんない

御礼

△図書の寄贈▽
古山隆男さん(下野上三区)より「輝坊といっしょに」外百二十八冊、小林一行さん(野上二区)より「古都」外七冊、渡辺清さん(下野上四区)より「政・官界五十年」、東京電力(株)より「東京電力三十年史」、福島県原子力広報協会より「福島県原子力安全行政十周年記念誌」を寄贈していただきました。

厚く御礼申し上げます。

あたらしい本

東京電力残酷物語 河内 稜
新幼稚園百科(全二十二巻)
はだしのゲン(全八巻)
おしん(奉公篇・結婚篇・流浪篇)
橋田壽賀子
彩り河(上・下) 松本清張
信濃デッサン館日記
窪島誠一郎
ほか六百一冊

※移動図書館車「ひまわり号」で新図書を積んで町内各地区を巡回いたします。くわしくは公民館にお尋ねください。

私と本と

野馬形 庄子ヤウ子

近ごろは一冊の本を読むことが出来なくなりました。新聞を讀むのがせいぜいである。時間がないのか、心のゆとりがないのかさびしい気がする。私と本との出会いは「古事記物語」で、小学生の頃だったと思う。ユジキを物乞いのユジキと考えていたのを思い出す。だからどの程度理解したかは疑問である。私が中学生だった

頃、大学に行っていた兄が、私の顔さえみれば、「本を讀め」とうるさかった。何を讀めば良いかと聞くと、「何でも良いからほんやりしている間に本を讀め」。今考えてみると、乱暴な言い方の中にも真意があったように思う。物を讀めば讀むだけ心に残り、それが年代と共に蓄積され、何かの役に立つ。そう教えていたのです。私が初めて給料で買ったのは、世界文学集の二十巻でした。自分の本など買えなかった学生時代に図書館の本を讀んだ。その感動した

本を返すのが惜しかった。その思いがあったからかも知れない。ずらり並んだ背表紙をながめ、感無量、悦に入ったものです。そして今もなお、十八年間も手元から離れずについてきている。私の本棚は精神安定剤のような役目をしてくれる。私は多くの本を讀むことにより人間としての生き方を學んだように思う。そこに描かれているさまざまな人間模様が、自分には出来ない人生経験をさせてくれる。自分の好きな道、考え方の方向づけ

が養われる。特に若い時代の讀書が大切です。そして年代に応じて内容も変わってくる。一冊の良い本に出会うことは、人との出会いと同じく、すばらしい道を開いてくれるかも知れない。未知への誘いであると思う。最近のあらゆる情報過多の時代に自分にあつたものを見つけるのも楽しみのひとつかも知れない。



町史探訪

鈴内溜池 改修記念碑



の山中(元字鈴内)にあり、中央台一帯五十六町歩の水田をうるおす大切な溜池である。

碑文は次の通りである。

鈴内溜池は私たちの先祖が天明の大飢饉を教訓として天保年代にあらゆる困難を克服して築堤された偉大な財産であります。どんな日照りにも水を与えてくれました。しかしその保全修理の苦勞は容易でなかったのです。昭和三十五年より昭和五十七年までの二十三年間の工事の経過を示しますと次の通りであります。

昭和三十五年～同三十八年

県営失対事業として大堤波除工事完成

昭和三十九年～同五十一年三月

余水吐工事と三面水路工事を鈴内伸夫氏宅西まで完了

昭和五十一年

町単独事業として五郎四郎までの水路延長七二〇米

総工費一、六二五万円

昭和五十四年～同五十六年

県老朽溜池整備事業、小堤波除工、余水吐工、橋梁工、堤塘工等施行

総工費四、六七〇万円

昭和五十五年

町単独事業で漏戸工事完了

工費二二〇万円

昭和五十六年～同五十七年

町単独事業の関連事業として西後内沢溜池改修工事施行

総工費四五〇万円

昭和五十七年

鈴内溜池工事、関連工事のすべて

県営ほ場整備事業で整備された大熊第二工区の約五十六町歩の水

不足は解消されたものと思えます。この間二十三年間故小畑重氏、故志賀秀正氏、遠藤正氏三町長の絶大なる御尽力に衷心より感謝します。また郷土関係議会議員として、昭和三十四年より現在まで町単関係予算の確保に努力された荒岡正一氏、歴代区長、その他関係役員諸氏の御苦勞に酬ゆると共に工事の概要を記録して永く後世に伝え、部落の発展を祈念したいと思います。

昭和五十七年十月吉日

(松本 幸一)



編集後記

◎新年おめでとうございます。編集委員並びに担当者一同気持を新たにし、よりよい館報づくりに邁進する所存です。今年も、昨年同様皆様のご協力・ご声援をお願いします。

◎このごろの新しい家庭には空気がない。物理学という空気はあるけれども、心理の空気がない。心の空気がないところでは、人間は育たない。家庭には心の空気がある。なくてはならない。もしなければそれは家庭ではなく家屋である。ホームではなくハウスである。

◎昔の人は、家々にそなわっている空気のことを家風と言った。心の奥深いところから少しずつ育てて行く、薰陶というのがこの空気教育である。

◎現代は、教育の時代と言われながら、意外に親に実力も、自信もない人が多いようです。日常のしつけにしても、家庭学習のことにしても、学校や塾などにまかせ、それでも自己満足し、肝心の最も大切な「手づくり教育」(家庭教育が)を、おろそかにしているようです。親以外の人に親の役割を演じることは、絶対出来ないことを悟ることです。

◎ある若者の狂歌に……●ガンガンと声だけ大きく中身なし親父の説教耳に栓す。●ドンと行きガーンとはね返すそんな父俺はほしいよ男らしく……。